留学報告書

竹川まりか

私は、9 月から 12 月までの約 3 か月間、フィリピン・セブ島にて語学留学を行った。本報告書では、現地の大学や町の様子、授業内容、生活面、そして留学を終えて得た成果や今後留学を考えている学生へのアドバイスについて述べる。

① 大学や町の様子

セブ島はリゾート地として知られているが、大学はリゾート地から少し離れた場所に位置している。大学周辺には飲食店が多く、すぐ近くにコンビニも設置されていたため、生活に不便を感じることはほとんどなかった。LCIC では警備員が常駐しており、治安面でも比較的安心して過ごすことができた。町の人々は非常にフレンドリーで、留学生に対して親切に接してくれた点が印象的であった。

② 授業

授業は主に英語のスピーキングや文法を中心に履修した。また、フィリピンの文化や SDGs について学ぶことができる授業も履修した。授業は全てグループレッスンで、レベル分けがされているため、自分に合ったレベルで授業を受けることができた。特にスピーキングの授業では、間違いを恐れずに話す姿勢が求められ、最初は苦労したが、次第に英語で考え、英語で話すことに慣れていった。多くの授業では定期的にテストやプレゼンテーションが行われ、自分の成長を実感できる機会となった。フィリピンについて学ぶ授業では、フィールドトリップに行く機会が数多くあり、また SDGs の授業ではボランティア活動に参加することができ、貴重な経験となった。

③ 生活や寮について

生活面では、寮生活を通して他国の留学生やローカルの学生と交流する機会が多くあった。共同生活の中で文化や価値観の違いに戸惑うこともあったが、それ以上に学ぶことが多かった。平日は授業後に復習を行い、週末には友人とショッピングをしたり、現地の食事を楽しんだりするなど、充実した時間を過ごすことができた。

④ 留学を終えて

留学前は、英語を話すことに対して強い苦手意識があり、自分の英語が相手に伝わるのかという不安を常に感じていた。しかし、留学生活の中で、文法や発音の正確さよりも、相手に伝えようとする姿勢が何よりも大切であると実感した。授業や日常生活の中で、間違いを指摘されることも多かったが、その経験を重ねることで、英語を話すことへの抵抗感が次第に薄れていった。また、異文化の中で生活することにより、自分の価値観が決して当たり前ではないということを学んだ。時間の感覚や物事の進め方、人との距離感など、

日本とは異なる点に戸惑うこともあったが、それらを受け入れ、柔軟に対応する力が身についたと感じている。一方で、もっと積極的に現地の人々と関わり、自分から話しかける努力ができたのではないかという反省も残っている。この留学経験を通して得た英語力や異文化理解は、今後の学業や将来の進路を考える上で大きな財産となった。短期間ではあったが、自分自身と向き合い、成長を実感できた貴重な三か月間であった。

⑤ アドバイス

これから留学を考えている学生には、出発前に基礎的な英語力を身につけておくことを勧めたい。特に、簡単な自己紹介や日常会話に使う表現に慣れておくことで、留学初期の不安を軽減することができると感じた。また、英語力だけでなく、現地の文化や生活習慣について事前に調べておくことも、スムーズに留学生活を送るために有効である。留学中は、失敗を恐れず、積極的に英語を使う姿勢が重要である。間違えることを恥ずかしいと感じてしまうと、成長の機会を逃してしまうため、積極的に話すことを意識してほしい。さらに、自分から行動し、人との関わりを大切にすることで、語学力だけでなく、人としても大きく成長できる留学になると考える。